びっくりクリスマス

W校　三年　三組　山田　心羽

わたしは、二年前のクリスマスにずっとずっとほしいと思っていた犬のポメラニアンをおねがいしていました。クリスマスがくるまで、本当に犬のプレゼントなんて持ってきてくれるのかなと、少し心ぱいしながら、楽しみに待っていました。

十二月二十五日の朝、わたしはすごく早く起きてしまいました。すると、まくらもとに手紙がありました。ドキドキして手紙を読むと、「となりの部屋にプレゼントがあるよ。」と書いてありました。わたしは、「うそでしょ、本当かな。」

16×16

と大きな声で言いました。そして、
となりの部屋のとびらを開けると、
まん中にかごがあり、小さなポメラニアンが、チョコンとすわっていました。
「かわいいー。しんじられないー。」
と言いながら子犬をだっこしました。
その子は、小さくて、ふわふわで目がまんまるなかわいい犬でした。
お母さんとお父さんが、
「名前は何がいいかな。」
と、わたしに聞きました。わたしが、
「わたしの弟だから、コウスケにしよう。」
と言ったら、お兄ちゃんは、
「よい名前だね。」

16×16

と言ってくれました。わたしが、
「コウスケ。」
とよぶと、しっぽをふりふりしました。家族全員が、気に入ってくれたので、コウスケという名前で決まりました。わたしは、世界中で一番かわいい犬が来てくれたと思って、すごくうれしかったです。サンタさんに本当にありがとうと言いたいです。
コウスケは、一才になる前にアメリカに来て、びっくりしたと思うけど、毎日楽しくくらしています。
今年のクリスマスプレゼントは何にしようかな。

がんばって解決した

W校　三年三組　平木悠人

トマト大事件

ぼくは、夏休みにテニス合宿でフロリダに一週間行きました。その中で一番がんばったことは、トマト大事件です。

夜ごはんの時の話です。ぼくは、四年生の友だちといっしょにせきにすわりました。メニューにっステーキディッププサラダーと書いてあったので、二人でいっしょにそれをえらびました。そして、はこばれてきたりょう理には、たくさんのトマトがのっていました。

トマトは、ぼくと友だちの大きら

いな野さいです。二人は、顔がまっ
青になりました。のこしてはいけな
いというルールがあったので、ぼく
はどうしようと思いました。でも、
ぼくと友だちは、ゆう気を出してト
マトを食べることにしました。
「ぼくが小さいのを全部食べるから、
君がのこりの大きいトマトを食べ
てくれる？」。
と、ぼくは友だちに言いました。ぼ
くは、フォークでトマトをつかんで、
トマトから体を放しました。でも、
友だちがトマトをがんばって食べて
いる所を見て、ぼくもがんばって食
べようと思いました。そして、目を
とじて、一、二、三、で口の中にト

マトをおしこみました。トマトのしるがジュワッと出てきて、とてもまずかったです。

「ぼくも小さいのも食べてあげる」。

と、ぼくの友だちは、やさしいからそう言ってくれました。そして、二人でがんばってさいごまで全部食べました。

食べ終わった後、ぼくたちは、全部食べきれたことがすごくうれしくて、二人でよろこびました。でも、もうせったいに同じしっぱいをしないようにと、ぼくは思いました。

ぼくがこの日思ったことは、文字だけを見たらおいしそうだけど、何が出てくるかはわからないということ

とです。今度からは、店員さんに、トマトが入っているか聞きますのほくは、この日のことをぜったいにわすれません。かんは、解決したトマト大事件でした。

16×16

地きゅうぎのたび

W校　三年二組
山ざきしゅう馬

ぼくは、ひまな時よく地きゅうぎを見ます。たん生日にお兄ちゃんがもらった物だけど、ぼくにもかしてくれます。最初はクルクル回して遊んでいたけれど、小学校のじゅぎょうでアメリカの州について調べた時から、地きゅうぎが好きになりました。

おじいちゃんとおばあちゃんを思い出す時、ぼくは地きゅうぎを回して日本を見ます。小さくてほそ長いのが日本です。横に、おすもうさんの絵がのっていて、お母さんが

「すもうは日本の国ぎだよ。」と教えてくれました。

日本を見た後は、すぐ横の中国を見ます。ぼくが生まれた中国にはパンダの絵がのっています。アメリカと同じくらい大きな国でびっくりしました。

親友のソモンとレオを思い出すと、ブラジルとポルトガルを見ます。ソモンは今ポルトガルに住んでいます。スペインのとなりにあるとても小さい国で、日本よりも小さいです。レオはブラジルに住んでいます。ブラジルは、ポルトガルの二十五倍くらいの大きさで、コーヒーとワニの絵がのっています。ブラジルで二人と毎

日遊んでいた時を思い出すと、ぼく
はすっぱい気持ちになります。
いつか地きゅうぎを回すように、
大好きな人たちに会えたらすごく幸
せです。それまでぼくは何回も、地
きゅうぎでたびをします。

16×16

ぼくのコレクション

W校　三年二組
槙　俊一郎

ぼくはアメリカに来てから集めている物があります。ペニーマシーンと言うきかいで平べったくした一セントに絵が付いています。

ぼくとペニーマシーンとの初めての出会いは、ブロンクスーでした。動物園内を歩いていたら、ペニーマシーンを見つけました。そのマシーンには四しゅるいのデザインがあって一つだけえらべます。一セントと、二十五セント二枚で作れます。ぼくと妹は、ペニーマシーンをためしてみる事にしました。さいしょに

ハンドルを回してみました。始めは軽かったですが、だんだん重くなってきました。すると、うすくなった円形のペニーが出て来ました。きたないーセントで作ったから出来上がったペニーもきたなくなってしまいました。次からはきれいなペニーを使った方がいいなと思いました。これは、いい記ねんになると思いました。

それから、色いろな場所でペニーマシーンを探すようになりました。グランドキャニオン、ナイアガラ、水族館など色いろな場所で集めて、やっと十二枚になりました。ぼくはそれを、ペニーコレクション用のペ

ニーパスポートに大事に入れています。

ある日ぼくはペニーマシーンがどこにあるかをインターネットで調べました。マンハッタンの自ぜんしはく物館には、たくさんペニーマシーンがあるみたいです。

さっそくぼくは、家族と自ぜんしはく物館へ行く事になりました。はく物館の中を見ながらペニーマシーンをさがしました。はく物館では四台のペニーマシーンを見つけ出した。新しく四まい手に入ったのでうれしかったです。ぼくがいままで取ったペニーの中で一番のお気に入りは、プラキオサウルスの物です。なぜか

と言うと、この絵がすごくかっこいいのと、ぼくは、きょうりゅうが大すきだからです。でも、ぼくは全てのペーコレクションを大切にしています。アメリカにいる間にしか出来ない事だし、そのペーを見るとその場所に行ったそこに行きたいなと思わせてくれます。アメリカにいる間にもっとふえたらいいなと思います。

16×16

フロリダの思い出

W校　三年二組
池田悠登

ぼくは、二〇一五年一月、五才の時に東京からフロリダに引っこして、今年の六月にフロリダからニューヨークに引っこしました。フロリダに住んでいた約三年半の間に、楽しい思い出が沢山できました。

フロリダでは平日は家の近くの現地校に通い、土曜日は、家から車で一時間半かけてマイアミ補習校に通いました。現地校とは習校の両方で友達ができて、休み時間にサッカーをしたり、放か後に公園で遊んだりしたことが楽しかったです。

16×16

フロリダは一年中あたたかく、冬でも外のプールで泳ぐことができる日が多かったので、家の近くのプールで泳いだり、ラビッズウォーターパーク、アクアティカ、イルカと泳ぐことができるディスカバリーコーブなどのウォーターパークで遊んだりできておもしろかったです。

ケネディスペースセンター、ディズニーワールド、ユニバーサルスタジオ、シーワールド、レゴランドなどのテーマパークや、キーウェスト、アメリカで一番古い街並みが残るセントオーガスティン、デイトナスピードウェイのあるデイトナビーチ、貝がらを沢山ひろえるサニベル島な

どに行けたのも楽しかったです。

フロリダでの体験でとくに思い出に残っていることは二つあります。

一つ目の体験は、ワニを見たことです。ぼくは小さい時からワニが大好きだったので、エバーグレーズ国立公園でエアボートに乗って、野生のワニを見ることができてとてもうれしかったです。オーランドのゲーターランドでは、ワニの上に乗ってワニにえさをやるショーで、ワニが写真をとったり、ワニにえさをやったりできて、おもしろかったです。

水中から飛び上がってえさを食べるところは、とても迫力がありました。

二つ目の体験は、フロリダ半島北

西部にあるクリスタルリバーで野生のマナティと泳いだことです。冬になると、メキシコわんに住んでいるマナティは、温かいわき水が出ているクリスタルリバーに集まります。車で三時間半かけてクリスタルリバーに着いてから、ボートに乗ってマナティを探しに行きました。マナティを見つけると、ボートからおりてマナティの近くまで泳いでいきました。マナティの体長は三～四メートル位で、近くで見るととても大きくて、おとなしかったです。親子のマナティもいて子供のマナティは小さくてかわいかったです。水がつめたくて、とても寒かったけれど、北ア

メリカでマナティと泳ぐツアーに参加できるのは、クリスタルリバー周辺のマナティほご区だけなので、フロリダでしかできない体験ができて良かったです。

フロリダで沢山の楽しい思い出ができたので、ニューヨークでもニューヨークでしかできない体験をして楽しみたいです。

大きくなったら

W校　三年一組
佐々木　快杜

ぼくは大きくなったら野球選手になりたいです。なぜなら、楽しそう、かっこうよさそう、そして有名になれるかもしれないからです。そして活やくするとたくさんお金をもらえるからです。一番の理由は、野球が大すきだからです。ぼくは大谷選手みたいになってピッチャーとバッターの両方で活やくしたいと思います。

ぼくが野球をすきな理由は、チームメイトといっしょにプレイできるからです。ぼくはバットでボールを

16×16

打った時のカキーンという音が大きです。とくにホームランを打った時はさい高です。また、あい手をダブルプレイにした時はいいきもちになります。そうするとチームメイトに、

「よくやったね。」

と、ときどき言われます。

なぜ野球をすきになったかというと、日本に住んでいた時、兄が野球をやっているところを見て楽しそうだったからです。また、父が上手なのでよく教えてくれました。父とキャッチボールをする時は、さいしょは、やさしくなげてもらいました。ぼくのそ父が、よく野球をテレビで

見ていたので、ぼくもいっしょに見ていました。ぼくのいとこ兄弟がキャッチボールを一日中やっていたところを見てやりたいなと思いました。家ぞく全員が野球が大すきなのです。

ぼくの一番の野球の思い出は今年の春と夏に参かしたアメリカでのリトルリーグです。その中でもわすれられない事は、ぎゃくてんまんるいサヨナラホームランを打ったことです。その時ぼくはとてもうれしかったです。ぼくのことを、チームメイトがおうえんをしてくれた事も、大切な思い出です。

ぼくは、プロ野球選手になるために毎日すぶり五十回、なわとびを百

回、うで立てふせ、休日には一コイルを走ります。さらに休日にキャッチボールを父としたいです。

いっぱい練習やトレーニングをがんばって、ゲームで活やくできる野球選手になりたいです。

日本の小学校

W校　三年一組

原　世凪

わたしは、今アメリカに住んでいて、アメリカの学校に毎日通っています。でも年に一回夏休みに二か月間日本に帰ります。その間に家族や友だちに会うことができ、日本の小学校に通うことができます。日本とアメリカの小学校はどちらも楽しくて大好きだけれど、わたしがアメリカの学校にはない日本の小学校のよい、好きなところを書きます。

わたしが一番好きなことの一つはきゅう食です。日本の小学校のきゅう食は、学校で作られているので、

おみそしるのように温かい物は温かいまま、れいとうみかんのようにつめたい物はつめたいまま、食べることができます。わたしはきのう食のとんが一番好きです。

日本では、ほうか後自分で遊ぶやくそくをして、一人でその場所へ行き、遊んだ後一人で帰ります。とてもドキドキするけど、ぼうけんしているみたいで楽しく、うれしい気持になります。

もう一つおどろいたことは、休み時間に先生がいっしょにおにごっこをしてくれたことです。わたしは、おにごっこが大好なので、先生がい

「しょにおにごっこをしてくれるとますます楽しくなります。まわりの友だちもうれしそうだし、先生にもいかけられる時は本当に楽しいです。ニューヨークに帰る前日のじゅぎょうのかわりにグラウンドでおにごっこをしたことをおりました。

毎日アメリカと日本の勉強をするのは大へんだけど、また日本の友だちと学校ですごすことをそうぞうすると、がんばろうと思えます。

ぼくの特べつな友達

L工校　三年一組
金　太悟

ぼくにはたくさんの友達がいます。アメリカの学校の友達と、ほ習校の友達です。ぼくが毎日学校に行きたい理由は、友達に会えるからです。お母さんは、「それだけなの。」と聞くけれど、ぼくにとっては大事な理由です。それい外の理由はまだ考え中です。

みんな大事な友達だけど、ほ習校の友達は少し特べつです。日本の食べ物やサッカーのせん手について話して分かってくれるし、

「カエルが帰る。」
みたいなじょうだんでわらってくれます。漢字がむずかしいのも知ってています。アメリカの学校の友達に教えてあげても、あまり分からなかったみたいでした。少しがっかりです。
もう一つは、ほ習校は土曜日しかないので、みんなに一週間に一どしか会えません。友達が休んだり、自分が休んだりすると、もっと会えません。ぼくは、ほ習校が終わった後に、学校の前にある公園でみんなと遊べるのをとても楽しみにしています。だから特べつなのだと思います。
ぼくがほ習校の友達に会いたいと思うように、ぼくの友達も同じよう

に思っていてくれたらいいな。と思います。

16×16